

# 活動発表会

大分県  
佐伯市立宇目緑豊中学校

工藤 昭征

15-1 バングラデシュ  
理数科教師



# バングラデシュ人民共和国

面積 : 北海道の約2倍

人口 : 1億2712万人

首都 : ダッカ

通貨 : タカ

(1タカ = 約2円)

言語 : ベンガル語

宗教 : イスラム教

ヒンドゥー教

仏教

民族 : ベンガル人



# 配属先・要請内容

初等教育訓練機関 ガジプール

(Primary Training institute, Joydebpur,  
Gazipur)

## 要請内容

「教科書暗記中心の理科授業からの脱却をはかるため、身近な素材を利用した理科実験の推進」

# 活動の目的 (協力隊参加への動機)

1. 任国で自分が受け入れられるか？  
(自分への挑戦)
2. 今までの経験を活かして、任国理科教育の発展のために努力をする。

# 活動内容

## 【PTI内の活動】

- ・実験授業(TTスタイル)
- ・実験校での授業(TT,個人)
- ・理科準備室の獲得とその充実
- ・自己評価カードの作成、利用、改訂
- ・授業案の翻訳
- ・教科書訳(5年生)
- ・小学校学年末テスト翻訳(算数、理科)
- ・指導要領の翻訳(3年 理科)
- ・理科クラブ
- ・理科実験集(第1版、第2版)
- ・教師のモチベーション調査
- ・上申書(PTIの問題点について)

## 【PTI外の活動】

- ・学校訪問
- ・地域における科学祭
- ・算数ドリル活動
- ・PTI相互の連携について
- ・理科トレーニング(トライアウト)参加
- ・サブクラスター研修(理科)参加
- ・プライベート教室への指導
- ・人形劇活動  
(道徳教育へのアプローチ)

# 理科準備室の獲得、管理



## 〔成果・課題〕

- ・旧校長と交渉の結果、赴任後2週間で手に入れることができた。
- ・突然の実験授業(訪問客による)にも対応ができるようになった。
- ・実験道具のストックができた。
- ・実験校の子ども達が科学に触れることができた。

# 実験授業 (Team Teaching 形式)

年	対象	種類	コマ数
2003	2ndshift	2	2
2003	1stshift	10	13
2004	2ndshift	7	3
2004	1stshift	13	13

## 〔成果・課題〕

- ・PTIの教科書と小学校の教科書を分析し、いくつかの基本実験を設定したことで少ない実験授業ではあったが、内容は充実した。
- ・TTの形式を用いて授業ができたので、お互いの不足しているところをうまくカバーしてできた。
- ・私の要請はPTIで 트레이ニー に対しての実験授業である。上の数字を見て、十分な活動ができたと言えるのだろうか？

# 実験校での実験授業

(TT授業, おもしろ実験授業)

学年	おもしろ実験	TT授業
2	1回	1回
3	2回	2回
4	4回	7回
5	3回	6回

・新校長の提案の元、年間の計画を立て、付属小学校の理科教師とTTで、実験授業を行った。また、実験校の教師が不足した際に、代わりに私が『おもしろ実験』の授業を子ども達に行った。

## 〔成果・課題〕

- ・年間を通して、計画通りに行うことができた。
- ・実験授業を行ったときの子ども達の反応を確認できた。

# 自己評価カードの作成、利用、改訂

目的： トレーニーが教育実習で授業を行った後に自分の授業を振りかえることができるようなカードの作成とそのカードの利用

〔1回目〕

- ・2003年1stshift 対象
- ・2種類のカード使用
- ・算数、理科

〔2回目〕

- ・2004年2ndshift対象
- ・カード改訂
- ・算数

〔成果・課題〕

- ・その場でトレーニーが授業を振りかえることができた。
- ・授業をする際のポイントを間接的に学ぶことができた。

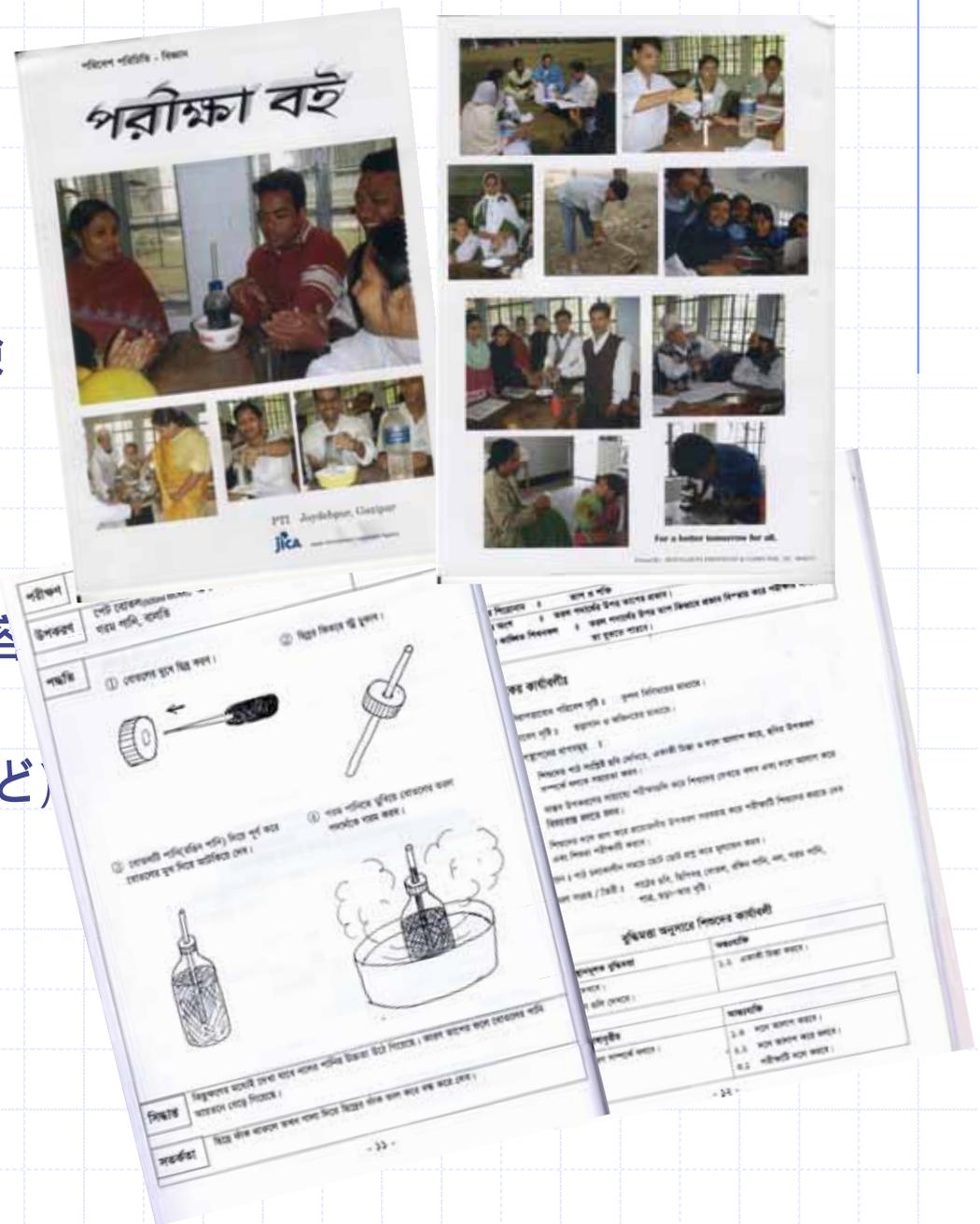
# 理科実験集

〔目的〕

任国のカリキュラム内で、実験授業をおこなう為の実験集作成

〔内容〕

低コストの実験(教科書の内容)  
「観察シート」のサンプル  
資料集(顕微鏡写真、天体など)  
おもしろ実験  
折り紙



# 成果と課題



- ・任国の教育事情を考慮した 実験集が作成できた。
- ・ 트레이ニーが現場に戻って、PTIで学んだ実験が再現しやすくなった。
- ・ 様々な教育機関でJOCVを宣伝することができた。
- ・ 絵から物事を学ぶことができないということに気がつかなかった。

# 学校訪問

目的： 現場の小学校の実態調査

期間： 2003年10月～2004年4月（計16校）

方法： PTIの授業日外に、郡内の小学校へ出向き、学校の様子や理科授業の様子などの調査。場合によっては実験紹介。

成果と課題：

- ・どの学校もこちらの期待以上に受け入れてくれた。
- ・現場教師にその場で実験授業を紹介することができた。
- ・授業以前に学校組織の強化の必要性を感じた。

# 地域による科学祭

## 〔目的〕

地域の子ども達に科学に接する機会を提供する。

## 〔期間・回数〕

2003年10月～2004年10月 計 8回

## 〔方法〕

休日や学校訪問終了後など地域に出向いて実験紹介などをする。

## 〔成果と課題〕

- ・子ども達の科学の楽しさを感じてもらうことができた。
- ・活動の継続的实施ができなかった。(道具の運搬の問題など)

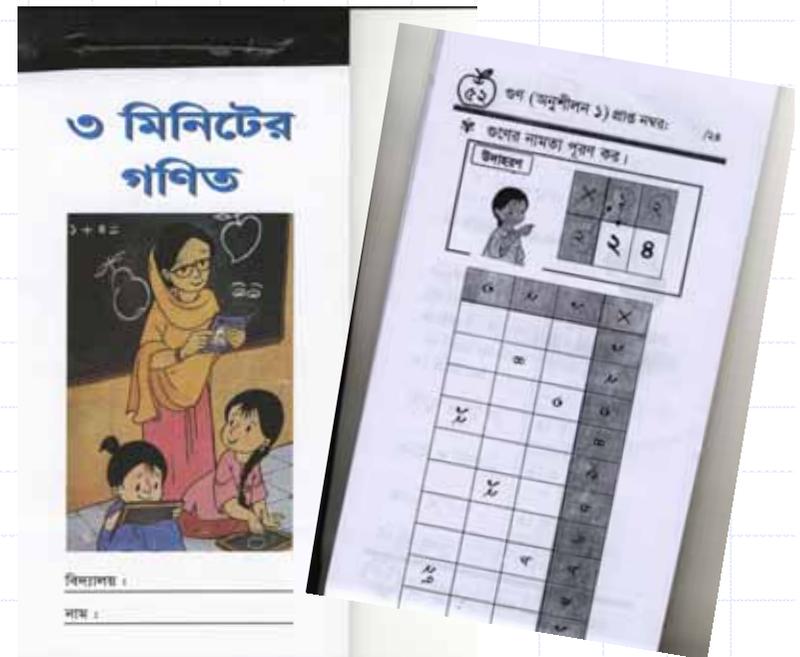
# 3MM(3分間ドリル)活動

## 〔目的〕

- ・毎日3分間、楽しみながら効率よく計算練習をし、基礎的な計算力(2年生まで)を身につける。
- ・子ども達の主体的なドリル運営
- ・集中力強化、学習意欲向上

## 〔対象〕

ガジプール郡 25校(1昨年度 19校)  
小学校3年生



## 〔方法〕

修業前にドリルを出して教師を待つ。  
教師の「始め」の号令で一斉に始める。  
教師の「止め」の号令で止め、隣の子  
どもドリルを交換する。  
相手のドリルを採点する。  
最後に得点を発表し、良くできた子どもを褒め合う。

### 〔子ども側〕

- ・3分間 集中力、けじめ
- ・お互いにチェック 主体性、自主性
- ・基礎的内容 落ちこぼれ対策
- ・遊び感覚のドリル 学習意欲の向上



# 成果と課題



- ・生徒は大変興味を持って取り組んだ。
- ・集中力・基礎力強化・学習に自主性が生まれた。
- ・教師は、初めのうちは算数ドリルの運営方法や、生徒のコントロールに困難が生じていたが、慣れるに従って、スムーズに行えるようになった。
- ・毎日、前向きに取り組んだ教師は教える喜びを感じ、算数ドリルを、他の授業や教育に積極的に役立てようとしている。
- ・2年目の学校については基本的なドリル運営が定期的な巡回指導を行わなくても実施されていたことである。

# プライベート教室への教授法指導

タンガイル県 スヌティア村  
村落普及隊員 矢野隊員との共同活動

〔目的〕

プライベート教師への演習授業  
の教授法指導

〔内容〕

- ・ 3MMを用いた基礎力強化
- ・ 授業内での演習量倍増計画
- ・ できない子どもへのフォローアップ指導



# 成果と課題

- ・短期間による計算能力の向上
- ・子ども達が板書能力の向上
- ・教師への積極的な指導
  
- ・遠距離からの指導によるきめ細かな指導不足
- ・できない子どものフォローアップの不足
- ・プロジェクトの継続性



# 終わりに

- ◆ 20ヶ月の任期を終え、活動を振り返り思い出してみると、自分1人でやり遂げた活動がなかったことに気がついた。

任国の人々を始め、他のJOCV、調整員、専門家、JICAスタッフ、ユニセフ職員など様々な人から機会と支援をいただいたことに感謝を述べ報告を終了します。

本当にありがとうございました。